講義名	商業簿記Ⅱ					授業形態	
担当教員	来栖　正利	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ３時限／後期 木曜日 ４時限				
		単位数	4	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	ACC280

主題と概要

商業簿記Ⅰでの学習事項を理解していることことを前提に、引き続き、簿記の技法の記帳方法を講義します。講義範囲は日本商工会議所主催の日商簿記検定試験の商業簿記2級の範囲です。

到達目標

商業簿記2級で問われる項目に関する問題を解くことができることに加え、その解説ができることを到達目標にします。具体的に述べるつぎのようになります。
(1)簿記一巡の手続きについて理解するとともに、会計帳簿と財務諸表を作成できるようになる。
(2)会計帳簿や財務諸表の作成を通じて、ビジネスの諸活動を計量的に把握する能力を身につけることができるようになる。
(3)日商簿記検定2級を合格することができる能力を身につけることができるようになる。
(4)会計の専門科目や隣接分野（経営・ファイナンス等）の科目の学修に際して役立つであろう基礎的な知識を身につけることができるようになる。

提出課題

講義内容に関するレポート課題を、基本的に毎回の講義毎、配布する用紙に作成・提出してもらいます。これは講義に実際に出席したか否かを問わず、出席調査を兼ねます。なお、出席調査を加点の対象にはしないもののレポート課題実施回数に対して1/3以上を提出しなかった場合(提出しなかった/できなかった理由を問いません)、履修放棄と判断し、最終評価を確定します。したがって、講義に出席したにも関わらずレポート課題を提出しなかった場合には「欠席」となります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

解答等をPotalに掲載する予定でいます。

評価の基準

（１）100点満点の定期試験の得点に基づいて最終評価を確定する。なお、コロナ感染症の状況によって定期試験の実施が不可能になる可能性を踏まえて、講義期間中に実施する課題作成と提出を欠かさないようにしてください。

（２）日本商工会議所主催の簿記検定2級の合格を加点対象にする(30点の加点)。在籍中の合格であれば、オンライン受験であるか会場受験であるかを問わない。詳細は12月中に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

講義出席を強制するようなことをしないのは、履修者自身が自分自身の必要性に基づいて勉強するならば十分単位修得ができるからである。しかしながら，講義室に「居る」だけならば、単位修得は不可能である。

基礎簿記、商業簿記Ⅰを好成績で単位取得している程度の知識と問題解答能力を備えていることが必要である。なお、この大学に入学する前に各種簿記検定の資格を得ている履修者は、初学者として最初から学習する意識をもって臨むこと。

教科書

.日商簿記2級に”とおる”テキスト(商業簿記).	ネット･スクール	ネット・スクール	2200	9784781032214
.日商簿記2級”とおる”トレーニング(商業簿記).	ネット・スクール	ネット・スクール	2200	9784781032221

参考図書

.なし.				

その他

ありません

授業計画

第1回　講義概要
Chapter0 2級合格への扉～簿記の本質～

第2回：Chapter1 現金預金-その1
　3級で学習した現金預金取引は、いわゆる「時間差」を考えていませんでした。例えば、今日振り込みしたものの、入金が翌日になる場合を振り込んだ側と銀行側の記帳にズレが生じます。この時間差を踏まえた記帳が2級では求められます。
[予習]：3級の内容の復習を60分程度行ってください。
[復習]：現金の「流れ」に時間差があることを現金過不足の復習と現金勘定調整表の考え方を勉強し直すことに180分程度かけてください。

第3回：Chapter1 現金預金-その2
　第2回の復習を行います。講義内容のポイントを確認すると同時に、問題演習を行ってもらい、その解説を行います。
[予習]：3級の内容に不安がある場合、この復習を60分程度行ってください。
[復習]：現金勘定調整表の考え方を踏まえながら、処理方法を確認しながら問題を再度解きなおすために180分程度かけてください。

第4回：Chapter1 現金預金-その3
　第1-2回の総まとめ行います。問題演習を解答し、この解説を復習解説として行います。
[予習]：3級の内容に不安がある場合、この復習を60分程度行ってください。
[復習]：現金勘定調整表の作成方法がワンパターンであることを実感できる程度まで講義で扱った問題を解きなおし、自力で解けるようになるために180分程度かけてください。

第5回：Chapter2 商品売買：その1
　3級は在庫(期末商品棚卸高)の金額が与えられていました。2級は在庫の値下げや紛失を踏まえた処理を行い、最終的な在庫を決定します。とはいえ、まずは3級で学習した期末用品棚卸高の処理を正しく理解していることを前提にしています。
[予習]：3級の商品売買取引を復習してください(60分程度)。
[復習]：期末商品棚卸高の価値が減少する事項(数量不足と価格下落)の内容を理解してください。そのさい、これらの事項が在庫量にマイナスの影響を与えるだけではなく、損益計算にも影響を与えるという内容を復習してください(180分)

第6回：Chapter2 商品売買：その2
　期末商品棚卸高と2級で学習する商品評価損と棚卸減耗を図示することで次期繰越額の算定方法を講義します。今回の講義で身に着けるべきことは図示表示を自分自身でできることです。
[予習]：第4-5回の講義を内容を踏まえて、図示表示された各勘定科目の関係を理解するために、図表の説明文を読んで理解が困難な部分を明らかにしておいて講義に臨んでください(60分程度)。
[復習]：資料として与えられた各勘定の数字を適切に図示表示できるために180分程度の復習時間を当ててください。図示表示できることができれば、これを仕訳・転記することが容易にできるようになります。丁寧に理解してください。

第7回：Chapter2 商品売買：その3
　第5-6回の講義内容を踏まえた問題演習を行います。
[予習]：問題演習をスムーズに解くことができるように、第5-6回の講義内容を再度確認し、各勘定科目の内容とその意味を復習してください(60分)。
[復習]：図示表示を自力でできることができれば、仕訳すべき金額を把握できるようになりますので、与えられた資料に基づいて図示表示が容易にできるように問題演習で扱った問題を反復演習してください。[予習と復習]：資料として与えられた各勘定の数字を適切に図示表示できるために180分程度の復習時間を当ててください。

第8回：Chapter2 商品売買：その4
　第5-7回の講義内容を踏まえて、各勘定科目の金額を算定できることを踏まえて、今度はこれらの金額を踏まえた仕訳と転記を主軸にした講義を行います。
[予習]：第5-7回の講義内容を踏まえて仕訳と転記ができるか否かを確かめてください(60分)。
[復習]：各勘定科目の金額を仕訳と転記できることが主軸になります。仕訳と転記は3級ですでに学習している事項です。しかしながら、これらに不安がある場合、焦らずに3級の復習を行ってください(3級の事項を含めて180分の復習時間をとってください)。

第9回Chapter2 商品売買：その5
　第5-8回の講義を踏まえた問題演習を行った復習を行います。
[復習]：商品売買取引の項目がいったん今回で一区切りになります。3級の事項を含めて180分の復習時間をとってください)。
[予習]：決済手段の一つである手形を次回の講義で扱います。掛取引による決済方法と手形の機能の違いを予習してください(120分)。
[復習]：手形に振出人と受取人があることの意味と受取人が行うべき処理とその理由を調べてください(120分)。

第10回Chapter3 手形等の取引
決済手段の一つである手形を講義します。馴染のない項目なので丁寧に説明していきます。掛取引と異なり、手形は取引当事者が事前に決まっています。このことの意味を理解してください。取引当事者が明確であることの意味を併せて説明します。時に、受取手形は売掛金の期末残高に関する貸倒れの処理に関係しますので、これも併せて説明します。
[予習]：手形の機能に関する説明を読んだうえで講義に臨んでください(60分)。
[復習]：決算時の貸倒れ処理を踏まえて、180分程度の時間をとってください。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ディプロマポリシーとの関連について説明すると下記のようになります。

到達目標（1）から（4）を達成することにより、経営学科DP（1）－①、会計コースDP（5）－①、（5）－②、マーケティング学科DP（1）－①、ブランド戦略コースDP（2）－①、流通ビジネスコースDP（3）－①、（3）－②）の達成に貢献します。

経営学科DPは以下の通りです。

DP（1）－①
各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけ、これをもとに、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができる

会計コースのDPは以下の通りです。

DP（5）－①簿記・会計の学問的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができる
DP（5）－②企業の社会的役割を理解したうえで、修得した専門知識をもとに企業が直面する問題や企業の強みを発見し、経営戦略の構築に貢献することができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

標準知識ならびに標準技法習得を目指す講義であり、議論を主軸に運営する講義ではありません。

実務経験の有無及び活用

ありません

備考